



WALLABY

2015年7月25発行 No. 414

特定非営利活動法人 神戸日豪協会 〒651-0084 神戸市中央区磯辺通 4-2-8KIMMビル7階

Kobe Japan-Australia Society ☎078(252)0576 FAX 078(252)0347

事務所:月～金(10時～15時、来所の際は事前にお電話下さい) e-mail:kjas@hop.ocn.ne.jp

銀行振込

三井住友銀行 神戸営業部 普通預金 □座番号 1276351

郵便振替

口座番号 01130-6-58944 加入者名 神戸日豪協会

年会費(一口)

賛助会員 10000 円、通常会員 8000 円、学生会員 5000 円
賛助ペア 18000 円、通常ペア 12000 円、法人会員 30000 円



Kobe Japan Australia Society

神戸日豪協会 青年部主催

バーベキュー開催のお知らせ

BBQ in AWAJI

8/8(土)

13時スタート



場所: 淡路市深草にある Cindy さんの別荘(参加者には、詳しい場所をお知らせします)

費用: おひとり様 2000 円～3000 円あたりで検討しています。お様は無料です。

内容: BBQ(持ち寄り大歓迎、BYO 式なのでビール等ご自分用の飲み物は各自持参下さい)

申込: 神戸日豪協会事務局 078-252-0576 締切は7月末まで。

*****派遣日本語補助教員☆便り*****

第5回レポート

ジーロン・グラマー・スクール・ティンバートップ校
(マンスフィールド、VIC)
富山 彩



みなさん、こんにちは。6月の報告をいたします。日本は梅雨の時期でムシムシと厚くなってきた頃かと思います。オーストラリア、Victoria州はすっかり冬、ウィンタースポーツを楽しむ季節となりました。

ティンバートップでの6月の大きな出来事といえばNAIDOC WEEKです。

NAIDOC (National Aborigines and Islanders Day Observance Committee) とはオーストラリアの先住民であるアボリジニの人々とトレス海峡諸島の民族の伝統的な習慣を祝うものです。アボリジニのひとたち、トレス海峡諸島の民族だけでなく、オーストラリアの全国民にとって重要なイベントのひとつです。

7月のはじめの週がNAIDOC WEEKなのですが、7月一週目がホリデーのティンバートップでは6月の最終の週にNAIDOC WEEKをお祝いしました。

日本語の授業でも、普段の授業から少し離れ、アボリジニと日本の北海道の先住民であるアイヌとの違いを勉強しました。日本語の先生が違いについて説明をしてくれました。オーストラリアの人々はアボリジニに対して公式に謝罪を行い、“アボリジニ

の日”というのを定めているのに対し、日本人はアイヌに対して公式な謝罪は行っていないものの、アイヌの人たちの意見を吸い上げて、話し合いを繰り返し、お互いに一番よい方法を探すという方法をとっているということです。日本語の先生に「あや、日本人は人々が協力して一番良い方法を探す。私が日本に住んでいた時も同じような経験をたくさんした。これは私が日本の人々や日本を好きな理由の一つだよ。」と言われ、今までそんな風に考えたことがなかったので、驚いたと同時に日本人であることに誇りを感じました。

アイヌについては日本人の私よりもオーストラリア人の先生のほうがよく知っていました。私も日本人として日本のことをもっと興味をもって意識して知ろうとしないといけないなあと思いました。

NAIDOC WEEK 中は普段は肅然とした雰囲気のあるフォーマルチャペル中に先生がポップなTIMBERTOP NAIDOC WEEK ムービーを流して普段とは違う形式で行ったり、Indigenous sports といってアボリジニの人たちが狩りや戦いに向けて自身を鍛えるために行っていたスポーツを体験したりと、普段の授業とは一風違った一週間となりました。特にcolors runは生徒、アシスタント、先生たちも楽しみました。Colors runとはバックアップランで、生徒たち、アシスタント、先生たちそれぞれがチームを組み、お互いに助け合いながらチームワークを重視し、走るというものです。それぞれのポイントで顔や服にペイントをされるのですが、ランが終わるころには、学校中の人みんなカラフルになっていました。普段の本気のランニングとは一味違った楽しいランでした。私は女子のアシスタント全員と声をかけ合いながら一緒に走りました。Oldies(old assistant)と行う最後のイベ

ントだったので、最後のポイント、Board hill から夕焼けをみんなで眺め、”Good job team!”とお互いにたたえあったのは素敵な思い出となりました。

この学校では、ただ colors run を行うのではなく、ちゃんとアボリジニの人々のためであるということをいろいろな形で紹介しています。生徒たちも楽しみながら違う文化を自然と受け入れていて、私はそうゆうところが好きだなあと改めて感じました。また、さまざまな国から生徒たちが来ていることも、いろいろな文化を受け入れやすい環境になっている理由だなと感じます。

6月の終わりには oldies との別れがありました。みんな私よりも7歳ほど年下の子たちなのですが、本当に自立して見習うところがたくさんありました。日本では7歳の年の差は大きな違いですが、こちらでは18歳から成人、先生たちからも大きな責任の仕事を任せられ、責任を課されます。みんなのお別れが辛いのは、楽しい日々、つらい日々を一緒に乗り越えたからだな、とつくづく感じました。Oldies の farewell party は Darling hut という学校に隣接している小屋で行いました。たくさん先生たちもいらして、みんなで窯でピザを焼き、星を見ながら語り合いました。

Term3 からはまた新しい子たちがやってきます。新しい出会いに今から胸がわくわくしています。

Term2 の holiday は、New Zealand に行きました。友人の家にステイさせていただき、違う町を旅したり、日本人の友人に会ったりしました。普段は校内で学校の人たちと触れ合う機会しかないのですが、こうして外に出ていろいろな人と話をするのは大切だなと感じました。また、New Zealand の一番の思い出は温泉に行ったことです。日本とは違って、自然の中にある Hot spring, つまりは温かい川で、水着を着て入るのですが、久々にあたたかいお湯につかって、“やっぱり私、日本人やな〜”と改めて感じました。

時が経つのは早いもので、もうこちらに

きて6か月が経ちました。折り返しの term3 を目前にしています。残りの2terms、悔いが残らぬよう、自分にできることを精いっぱい頑張ろうと思います。(7月10日)



アシスタントの仕事、「採点」

ピース・ルザラン・カレッジ
(ケアンズ, QLD)

伊藤 梨絵

Term2 も終わりをみせました。最後の週は Prep から year5 の競技大会、Athletic carnival がありました。種目はスポンジ素材でできたロケットのような形のものを投げる槍投げ、ショットプットと呼ばれる砲丸投げ、スプーンレース、高跳び、シャトルラン、ハードルジャンプ、袋に入ってカンガルーのようにジャンピングをするサックレースなどです。サックレースをする生徒は本当にかわいいです！実はみんなが体育の授業でたくさん練習をして頑張ってきたのを知っていたので、みんなのがんばる姿、応援する姿を間近で見ることが出来て楽しかったです。Term2 の8週目ぐらいから year4 と5 はいよいよ“ひらがな”の勉強にはいりました。そして毎週ひらがなの writing テストがあるのですが、ただテストだけするのではなく、先生が決めた点数に達すれば空手の帯色にかけて紙色がもらえます。例えば初めはあ行から学ぶので5点 perfect ならば白の紙色がもらえます。つぎに“あ行”プラス“か行”と“が行”とどんどん増えていき、空手でいうと次の帯色は黄色。ですから黄色の紙色がもらえることとなります。そしてこの採点はアシスタントの大事な仕事です。ただの採点と思うかもしれませんが、思っていたよりも難しいものでした。やはり生徒にとってひら

がなは初めてみる形の言語であり複雑です。ですから、書いたひらがなが、ちゃんと形になっていないことは多くありました。ゆか先生には私の基準で決めて判断していいからね。とおっしゃってくれたのですが、採点后、どうしてこれがだめなの？という生徒の疑問がいくつかあったようで、始めから少し厳しすぎたようです。ゆか先生には、「私とりえちゃんの採点基準は違うから、私が言ってしまうと基準も変わってしまい混乱してしまうと思うからそのままいいと思うよ。」とおっしゃってくれたのですが、私の気持ちとしては最初から甘くしない方が生徒のためになるかなと思ったのですが、それでやる気を失わせてしまう場合もあるし、見慣れないひらがなを書くことはとても難しいということをやちゃんと理解できていなかったなと感じました。先生から、生徒の疑問があったということを知ることができてよかったです。採点という仕事はやっていく中で私自身にもとても勉強になるお仕事であるなととても勉強になりました。そのひらがなをどうにか書こうとしているがんばりや、前回、間違いが多くても次でぐーんと伸びていたり、みんなのテストからたくさんのがんばりが見れることができてとても貴重な体験ができています。ホリデーでたくさんリフレッシュしてTerm3も頑張ります。(7月10日)



6月報告書

ザ・カシドラル・スクール
(タウンズビル・QLD)
前 田 愛

あっという間に、オーストラリアの生活も残り半年となりました。6月は今まで以上に時間が流れるのが早く感じたように思います。それはきっとルームメイトたちが

6月末に帰国したことが大きな理由だと思います。今日は、普段の学校以外での生活についてご報告したいと思います。

私のルームメイトたちはギャッピーといつて outdoor education のアシスタントです。彼女たちは私たち語学のアシスタントと違い、去年の7月から1年間のプログラムなので、一足先の帰国となりました。彼女たちは Junior school から senior school の全ての学年のキャンプを担当しているため、その度に約1週間のキャンプに行っていて家にいない事も多々ありました。いつもキャンプ中は大きな家に一人なのでとても寂しかったです。そのため、時々運動もかねて趣味のダンスをしにシティに行ったりしていました。そこでは学校だとなかなか出会えない雰囲気の人たちも多いので、学校とはまた違ったコミュニティの中でコミュニケーションをとれる良い機会になりました。

5月～6月前半にかけては、3週間連続でキャンプがあり、土日に帰ってきてまた月曜から出発するという、とてもハードな日程でした。そうしているうちに、最後のキャンプが終わり帰ってきた頃には、もうすでに帰国まで残り3週間でした。ちょうどその時期はギャッピーの1人、Valentinaの誕生日だったので、みんなでお祝いをしました。もう一人のギャッピー、Lilyと一緒に計画し、誕生日前日から用意しました。Lilyはケーキを作るのがとても上手で、まるで売り物のバースデーケーキのようなくとも可愛いケーキを作ってくれました。彼女たちは日本食が好きなので、今回のメインにはカレーライスを作りました。そして誕生日当日の朝は、いつもより1時間ほど早く起きてリビングを飾り付け、プレゼントを用意してサプライズをしました。学校での仕事の後、夜は他のアシスタントも誘って家でパーティをして、その後はシティに遊びに行きました。この日誕生日を迎えた Valentina は19歳になり、前回の報告書でも少し書きましたが、私は19歳の女の子と一緒に住んでいるのかと改めて思うと、

ケーキにろうそくを立てながらその若さに一人衝撃を受けていました。日本人と比べると立ち振る舞いや話し方が堂々としているので、普段見た目ではそこまで年齢差は感じませんが、何日も前から自分の誕生日までの日数を数えて楽しみに待ち、当日も目一杯おめかしして嬉しそうにしている様子を見ると、やっぱり中身は19歳の女の子だなーととても可愛らしく思いました。

帰国までの日々はあっという間に過ぎていき、3人で過ごす最後の週末は、久しぶりに外食をして映画を見たり、日曜日にはフェリーでMagnetic islandという近くの島に行って過ごしました。島ではシュノーケリングをしたり、ビーチでのんびり過ごしました。この島に来たのは私がオーストラリアに来て最初の週末に3人で来て以来だったので、帰りのフェリーで半年前に見た時と同じような海に沈む綺麗な夕焼けを見ながら、なんだか感慨深い気持ちになりました。

ギャッピーたちをそれぞれ空港までお見送りに行った後の今、ルームメイトがいなくなった実感が未だに湧きません。でもいつもキッチンから聞こえてくる鼻歌が聞こえてこない静かな家はなんだかとても広く感じます。オーストラリアに来て最初の半年は本当にあっという間で、きっと後の半年はもっと一瞬で過ぎていくのだろうなと思います。新しいルームメイトたちは7月末に来る予定なので、残り半分も楽しく過ごしたいと思います。(7月10日)



巻きすしに奮闘!

クライストチャーチ・グラマー・スクール
(パース、WA)
石田直士

早いものでオーストラリアでの生活も残り半分をきり、CCGSのレンタ(補助教員)の中でも一番の古株になりました。7月3日に2学期が終わり、レンタの入れ替わりが激しい時期となります。そして、今いる僕以外のレンタが全員かえってしまいます。本来なら、日本人レンタとフランス人レンタは1年間いるはずなのですが、急遽帰ることになったのです。当初の理由は家族の都合と言っていたのですが、よくよく話を聞くと、映像会社でインターンシップをやりたいからとのことでした。僕はこの休暇を利用してバリに行く予定でして、7月17日にパースに帰ってくるのですが、それから新しいレンタが来る新学期の初日までの4日間はレンタハウスに一人で住むこととなります。そして、来学期は初の中国人レンタが来るとのことです。

次は仕事の話になりますが、ちょうど2学期が終わりましたので、この2学期を簡潔に振り返ってみようと思います。2学期は仕事内容が1学期と同じだったので、スムーズに進んだとおもいます。そして、この学期だけですが、日本語の授業に僕と同じ年齢の教育実習生(オーストラリア人)がカーティン大学から来ていました。趣味の音楽の話も合い、オーストラリアのことを教えてくれたり、反対に僕が日本語や日本の文化も教えたりして仲良くなれたので非常によかったとおもいます。レンタにはオーストラリア人いない上、僕の働いているCCGSのランゲージの部署でもオーストラリア人は8人中2人と少なく、そもそも、あまりオーストラリア人とは深く話しあう環境ではなかったので、とても良い機会でした。

そして、その教育実習生は今学期だけなので、学期末に最後の授業で、日本語の授業の一環として日本の食べ物を作りました。7年生、8年生は巻き寿司を作り、9年生から11年生はお好み焼きを作りました。巻き寿司は衛生面とコストの関係で生魚は使用せずに、ツナ缶とコーン、きゅうり、人参などの野菜をメインとして作りました。しかし、僕は個人的に巻き寿司はあまり好きではないし、日本でも作ったことはなく、CCGSでも日本人の教員は僕一人のため誰にも頼れなかったです。そして、日本人だから巻き寿司を作れて当たり前というオーストラリア人の眼差しのプレッシャーのなか、昨夜 You Tube でみた巻き寿司の作り方を頭のなかで思い出しながら生徒たちに教えました。ですが、巻き寿司のできが予想以上によく、かなり盛り上がり、生徒たちもみんな楽しそうに作っていました。

そして、お好み焼きですが、関西の食べ物であり、かなり馴染みのある食べ物ですが、関西の店では店員が焼いてくれるので、あまり作ったことがなかったことに驚きました。しかし、教育実習生がお好み焼き大好きで、作り方は任せてくれとのことだったので、僕はひたすらキャベツを切っていました。お好み焼きミックスはなぜかハンブルで書かれてある韓国製だったのですが、ソースは定番のお好みソースを使い、マヨネーズはキューピーマヨネーズに似たマヨネーズだったので、日本で食べることのできるようなおいしいお好み焼きができてよかったです。

来学期の8月はCCGSの姉妹校である報徳学園から高校生が異文化体験として10日間CCGSに来るので、僕の仕事も忙しくなりそうですが、パースでの生活も残り半分をきったので、いつも以上にがんばりたいと思います。(7月10日)

二学期が終了、冬がやってきました

シーロン・グラマー・スクール コライオ校
(シーロン、VIC)

今泉 佳菜

こんにちは、6月の報告をいたします。

本格的な冬が始まりました。とはいっても晴れていれば日なたは暖かいので、冷たい空気の中、外を歩いているととても気持ちがいいです。やっぱり事情が違うなーと感じることは、日本であれば一年を通して緩やかな波を描いて気温が変動していくのに対して、こちらは毎日天と地ほど差があったり、かといってひと月通してみると、2ヶ月前からそう変わっていないように感じたりもします。道行く人の服装がバラバラなのはそのせいなのかわかりませんが、まったく不思議なところですが、でも私もすでに順応したので、体調を崩すようなことはなくなりました。

今月で2学期、ならびに第一セメスターが終了しました。それに合わせて、それぞれの学年で成績をつけるための試験や課題が課され、私もいろいろな形で関わりました。色んな意味で衝撃を受けたのが、5年生の課題で、日本に旅行に行くという設定で必要な情報の調査をし、英語でプレゼンするというものでした。こちらでは小学校から一人一台自分のコンピュータを持っているのが普通になっていますが、それらを操り、インターネットで日本の気候、適した服装、飛行機のチケット代金やフライト時間、観光地への交通アクセスなどを調べ、その情報をパワーポイントを使ってプレゼンテーションに落とし込み、ユーモアを交えながらクラス皆の前で堂々と発表する弱冠10、11歳!!!!

こちらの子供たちは、こんな風に小さいときからプレゼンの機会があってよく訓練されているんだなと納得しました。高校生にもなると、学校全体の行事などで前に立って話している姿を何度も目撃してしまし

たが、誰もがまるで政治家やプロの司会者のように余裕と自信にあふれた話しぶりなので、感服しきりだったのです。

7年生では興味のある日本のトピックを一つ選んで英語でプレゼンする課題でした。トピックは様々で花見、神道、封建時代、侍、日本刀、さっぽろ雪祭り、自動販売機、新幹線、原宿、アニメ、マンガ、ボーカロイド、金太郎飴(??)などなど、私からすると自動販売機から日本を語るという発想がなかったのととても興味深かったです。初音ミクのコンサート映像を異国の地の、学校の教室で初めて見ることになりました。そのとき発表者以外にも、クラスの中に大ファンの男の子がいて、1曲フルコーラス熱唱していた彼の姿は、日本に帰ってもきっと忘れることはないでしょう。一つ気が付いたことは、傾向として、中国や香港など日本に近いアジア圏出身の子たちは現代日本のポップカルチャーに興味を示す一方、オーストラリア人の生徒は伝統的な日本文化や典型的な日本の技術等を取り上げるということです。現に10年近く日本語を勉強してきているオーストラリア人の12年生は3Dアイドルに熱狂する若い日本の男性たちをみて、悲劇以外の何物でもない、と嘆いていました。日本の中で少しずつ起きている変化や若者文化などは、世界にも広まってきているとはいえ、まだまだ浸透していない部分が多くあるのだと感じさせられました。だからこそ、私たちが伝えていく意味があると思っています。

7、8年生は短い会話のテストもあり、私はその相手をしながらその出来について採点もしました。すこし緊張しながらやってくる生徒の顔は、普段授業や廊下でみかける表情とは違って、真剣な彼らには申し訳ないけれど、可愛らしいなと思いながら見守っていました。思い起こせば自分は中学校や高校で、英語のリスニングはあっても口頭の試験なんてなかったな、この子たちはすごいな、なんて思いながら、きちんと評価はつけさせていただきました。

この学期では、日本語をとっている生徒全員の名前を覚えるということに挑戦していました。今さら、といえばそうかもしれませんが、こちらに来たての頃は、他にやるのが沢山あって一杯いっぱいだったし、そこまで必要性も感じなかったのも、意気込んで全員を！というようなことは特にしなかったのです。最近では仕事にも慣れ余裕がでてきたので、授業にでるときの裏ミッションとして、完全に自分だけが解かるメモを取りながら一人パズル感覚で取り組んでいました。15クラス、200人ちょっと、ほぼ全員をそらで顔と名前を思い浮かべられるようになりました。一番最後の難関が、顔ははっきり覚えているのに、何度確認しても名前が思っていたのと違って、いる男の子がいて、最終的に本人に「もしかして、、？」と尋ねてみたら、それぞれ別のクラスにいる双子の兄弟でした。何度も書き直したメモの上に赤字で情報を書き足しました。

学期の区切りで去っていくスタッフがいたり、また新しい人が来たりするのも日本の学校と違って不思議な感じです。今学期は、フランス語アシスタントの一人、タヒチ人の子の任期の終わりでした。私が着任してからの半年間、一番長い時間を一緒に過ごした友達の一人なので、それは私にとっても、とてつもなく大きな出来事でした。ドイツ人のアシスタントと一緒に彼のためにフォトアルバムを作成してプレゼントすることにしました。写真の選定や材料集めから含めて約6週間、彼が家に遊びに来ていないときを見計らって、ときには夜中までかけて30ページ超の大作を作り上げました。学校生活や休みの日にしていたこと、遊びに行った場所、お気に入りの食べ物と一緒に観たDVD、誰かの口癖など、彼と過ごしたすべての時間をその中に詰め込みました。アルバム作りは、自分自身のオーストラリアに来てからの半年間を振り返る作業にもなりました。学期終わりの忙しい時期に、CONVO 終わりの夜9時ごろからのアルバム作りは、実際相当なハードワークで

したが、そこまでしても作った物をあげたいと思える友達ができたこと、そして、毎晩お腹が痛くなるほど笑ったり、奇跡的なアイデアに感動したり、別れの時を感じて涙したりしながら、一つの物を一緒につくる友達ができたことは、私の一番の自慢です。

別れの後には新しい出会いが待っています。のこりの6ヶ月、一瞬一瞬を大切に丁寧に過ごしていきたいと思います。ではまた、来月に。(7月10日)



リトミックのアシスタントに初挑戦

ヒルズ・カレッジ (シンブンバ、QLD)
長 田 悠 里

こんにちは。6月の報告をさせていただきます。9週間あったターム2を終え、3週間のホリデーも残り1週間となりました。今回は、ホリデー1週目に見学・参加させていただいたKindyのリトミックについて書きたいと思います。

現在ヒルズ学園では、Kindyの2歳~4歳、Prepの5歳の子どもたちを対象に試験的にリトミックが行われています。リトミックとは、音楽を使ってさまざまな活動を行い、その活動を通して生活するうえで必要となることを子どもたちが自然に身に付けられるようにする教育法のことを言います。例えば、ある2分音符の曲を聴いたらドシンドシンとゆっくり踏みしめるように歩き、ある4分音符の曲を聴いたら歩き、ある8分音符の曲を聴いたら走るという決まり事を作ります。それに加えて、チリンチリンと高い音が聴こえたら進行方向を反対に、チリンという高い音が聴こえたらジャンプ、ドーンという低い音が聴こえたら地面に手

をつく、この曲を聴いたら寝る動作をするなど多くの決まりごとが出てきます。子どもたちは、その決められた音や曲を覚えて、曲を聴き分けることで動きを変えていきます。実際に体験してみて分かったのですが、曲や指示のための音を覚えるだけでも大変で、とても頭を使います。私は、ターム2の後半からPrepクラスのリトミックにアシスタントとして入ることになりました。そのため5歳の子どもたちの様子は知っていましたが、このリトミックを2歳から行っているということが信じられず、半信半疑でKindyのリトミックに参加させていただきました。Prepの子どもたちほど曲を聴き分けることはできていませんでしたが、寝る動作をする曲だけは2歳の子どもたちもみな覚えていて、その曲を聴くとそれまで動きを真似していたはずのKindyの先生方よりも先に寝る動作をする子どもたちの姿が見られました。まだ始めたばかりで変化が分かりにくいようですが、リトミックを続けると2歳の子どもでも物事に集中できるようになったり、順番を待つことや友達に譲ることができるようになったりするそうです。「考えて行動しなさい」という言葉をみなさん一度は耳にしたことがあると思います。しかし、小さな子どもに「考える」とはどういうことを教えるのは、簡単なことではないと思います。リトミックの素敵などころは、「集中する」「考える」「行動する」などということ子どもたちが活動を通して身に付けられるところだと思います。活動は、曲や指示を覚えることは難しいかもしれませんが、ゲームや遊びをしている感覚で取り組むことができます。とても楽しんで行うことができます。

オーストラリアに来るまで全く知らなかったリトミック。学校側からリトミックのPrepクラスにもアシスタントとして入ることはできませんかというお話をいただいたときは、日本語のアシスタントとして派遣された私が、全く知らないリトミックのアシスタントに入ってもいいのだろうかと思いましたが、今では知らないことを知る機

会をいただけたこと、貴重な体験をさせて
いただけていることに本当に感謝していま
す。もちろん日本語クラスでの仕事が疎か
にならないよう気を引き締めようと思いま
す。あと半年を切ったオーストラリア生活、
行ってよかったと思えるように頑張りたい
と思います。(7月10日)



授業の工夫

ロレト・カレッジ (バララット、VIC)

大田 詠 舞

こんにちは。ご無沙汰しています。バラ
ラットは今日も寒いです。メルボルンにあ
るユニクロがセールをしていたので、思わ
ずヒートテックを買ってしまったぐらいの
寒さです。

さて、今月もいろいろなことがありまし
た。では最初に、七年生のお話からしたい
と思います。この日の授業は、生徒が店員
さんとお客さんに分かれて、習った日本語
を使うという授業でした。きゃりーぱみゅ
ぱみゅという日本の歌手の音楽を流しなが
ら、お客さんはぐるぐると教室を回ります。
その間、店員さん役の生徒は大きな声
で元気よく、「いらっしゃいませー」と叫ん
でお客さんと呼び寄せます。それぞれのお
店には、お弁当の絵が色鮮やかに描かれた
大きいポスターが貼られてあり、焼き鳥や
酢の物！？も上手に書いてあって面白かつ
たです。(一体どこで見つけたのでしょうか)
音楽が止まったら、行きたいお店の椅子に
座り、ご注文は？などのやり取りをします。
そしてその後は、お客さんがプリントに、
「あいじょう」「いろどり」「うきうきする」
「えいようバランス」「おいしい」を、評価
します。話さないといけないからたくさん

話すし、たくさん話すことで耳が日本語に
慣れるので、やっぱり口に出すことはいい
なと思いました。また、七年生は若いので、
いつも恥ずかしがらずに挨拶をしてくれた
り、私の言ったことに対して「そうですね
〜」と返してくれたりするので、その素直
る純粹さを持ち続けて欲しいなと思いまし
た。ちなみに、メルボルンにある、「元助」
という九州のラーメン屋さんにもホストファ
ミリーと行ったとき、あまりの掛け声の大
きさに、「日本のお店は全部こうなの!？」
と驚かれてしまいました。この七年生たち
も、いつか日本に行って、驚く日が来るの
でしょうか。

次に、十年生のお話をします。十年生は
前お話しした通り、小学校に行って自ら教
えるという貴重な体験をしています。その
次は行った小学校の子たちがロレトに来て
くれて、再び授業をしたそうなのですが、
残念ながら私はその場にいなかったのが割
愛させていただきます。そして今回もまた、
前回と違う小学校に十年生と共に行ってき
ました。今回教えることは、「〜で〜にいき
ます」という文です。行く方法として、車
やバス、新幹線などを習い、場所は公園や
温泉などを勉強しました。とても興味深か
ったのは、会話のテストがあまりうまく行
っていなかった子が、生き生きと単語を教
えていたことです。単語はこうやって覚え
るんだよーと英語と結び付けて、日本語が
連想しやすいように工夫していたことがす
ごいなと思いました。そのほかにも、生徒
の一人が、質問は日本語でどう言うの？と
聞いてきたりして、教えるとすぐに使い始
めたことにも感動したりもしました。しか
し、小学生の一部に、あまりやる気がなさ
そうな子もいたので、座ってただ教えるの
ではなく、動きやリズムも取り入れて教え
ることも必要だったのかもと考えさせられ
ました。教えることの難しさを、十年生も
感じ取っていたと思います。

そして十一年生。十一年生はグループご
とに座って、リスニングをたくさんしまし
た。十一年生にとっても、カタカナはまだ

難しいようでした。例えば、日本語で聞き取れたところをまず英語でばばっとメモします。その次に自分で日本語に変えようとするととても大変なのです。ペンギンも、「ペンギン」と書いていました。(おしい!) また、「コ」を反対に書いている子もいました。日本語はひらがな、漢字に加えてカタカナも覚えなないといけないので、生徒たちもとても必死です。みんな頑張れー!

それから、十二年生。十二年生はとてもよく頑張っています。今は健康について勉強していて、ホリデー中にも大きなテストのために多くの宿題が出されています。これからどんどん大変になるので、ホリデーは休憩もしつつ真面目な子は自分を追いつめないようにしてほしいです。

最後に私事ですが、このホリデーの間に、ヒルズに行っている長田悠里さんとダーウィンに行ってきました。無計画だったのにも関わらず、行きたいところも全部行けて盛りだくさんの五日間でした。ちなみにオススメはリッチフィールドです。また、クルージングでワニが肉に飛びつくところも見られるので、自然に興味がある方はぜひどうぞ。

その後は、ピースに行かされている伊藤梨絵さんとメルボルンに行きました。豪華な朝食に買い物に…充実した三日間でした。二人に会って色々な話ができたので、会えて本当に良かったです。

ここまで読んでくださりありがとうございました。(7月10日)

感動サプライズ!

ナビゲーターカレッジ
(ポートリンカーン、SA)
米 山 実 貴

ナビゲーターカレッジは6月の最後の週からホリデーに入りました。term2が終わると同時に私のナビゲーターでの仕事が終わり、最後の週は全てのクラスとお別れの挨拶や記念写真の毎日で寂しい一週間でした。term2最後の日には素敵なサプライズをしてもらいました! 全校集会の時間に year6/7、10の生徒が『Mickey!』の替え歌を作って踊ってくれました! 日本語と英語の両方を使った替え歌で、メッセージもダンスもサプライズも全部嬉しくて感極まって泣いてしまいました。。。昼休みには突然生徒たちが日本語教室に集まり、シェリーとフィオーナが編集してくれた生徒たちからメッセージショートムービーを上映してもらったりと、最後の週はたくさんサプライズをしてもらいました!

ナビゲーターでの仕事が始まった時は日本の学校とは建物や職員室から成績のシステム、先生、生徒、授業全てが違う環境で戸惑いの毎日でした。アシスタントとしてしっかり働きたいという気持ちが逆に空回りの時期も、職員室で日本語の先生以外の先生とコミュニケーションを取ろうと励んだ時期、生徒との距離感に悩んだ時期と、環境に慣れても他のことに気持ちがいっぱいだった半年でした。日本語の先生シェリー、フィオーナには一緒に働かせていただいただけでなく英語、学校での仕事、オーストラリア生活、全ての面で支えてもらいました。ホストファミリーとして迎えてもらい、オーストラリアならではの食べ物、イベント、習慣を何でも挑戦させてもらいました。フィオーナのお家にステイさせてもらっていた時、イースターの期間に食べることのできるホットクロスパンが好

きと言ったらフィオーナが手作りホットクロスパンを作ってくれ、イースターまでの期間はほとんど毎日ホットクロスパンを食べさせてくれました。笑 またシェリーのお家では天ぷら、お好み焼き、バーモンドカレーを用意して日本食パーティーをしました！二人とも日本が本当に好きで、日本についての知識は私より詳しい時もあるくらいです！英語でも日本語でも表現できないほど感謝しています！

半年間の仕事を終えて、もっとこうすればよかった、あの時はああするべきじゃなかったとか、自分の無力さを感じました。それなのに最後の日には先生、生徒から「**miss you-!**」と言ってもらい、嬉しさ半分、申し訳なさ半分でナビゲーターの仕事が終わりました。ポートリンカンでの生活も残り半年、まだ何度かナビゲーターに行けるみたいなのでまた次回はアシスタントとして悔いの無いよう働きます！そして **term3** から公立のポートリンカンハイスクールでの仕事が始まります。公立と私立、生徒が高校生とかなり環境が変わりますがナビゲーターでの反省を生かして新しいスタートを切れるのでとても楽しみです！

(7月10日)

サプライズパーティーの様子！



素敵なメッセージとプレゼントをいただきました！



日本語教師アシスタント帰国報告会「第2弾」が行われました。

7/11(土)神戸市勤労会館2F 多目的ホールにて



6/20に行われた第一弾より、若干、参加者は少なかったものの、若い参加者が多く、熱のこもった有意義な報告会となりました。ご参加ありがとうございました。

2015年度年会費のご案内

本年度年会費のご入金のご案内をさせていただきます。ワラビー誌をはじめとする印刷代、郵送料、日本語補助教員派遣プログラムの研修や事務所運営費など、当協会の活動はすべて会員の皆様の会費・寄付だけで運営されています。近年、会費のお支払いが滞り、協会の存続にかかわる財政状況となっております。ご入金を何卒よろしく願いいたします。皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

通常会員 8,000 円 (一〇 2,000 円を 4 〇以上)
学生会員 5,000 円
賛助会員 10,000 円
通常ペア 12,000 円
賛助ペア 18,000 円

郵便振替: □座番号:01130-6-58944
加入者名:神戸日豪協会 (同封の用紙をご使用下さい)

銀行振込:三井住友銀行・神戸営業部 普通預金
□座番号:1276351
加入者名:神戸日豪協会

* 既にお支払い済みの方に届きました際はご容赦下さい